

# 令和 3 年度 農林水産白書について

## 1 趣旨

「福岡県農林水産業・農山漁村振興条例」（平成 26 年 12 月制定）に基づき、農林水産業の動向や施策の実施状況などを取りまとめたので、報告するもの。

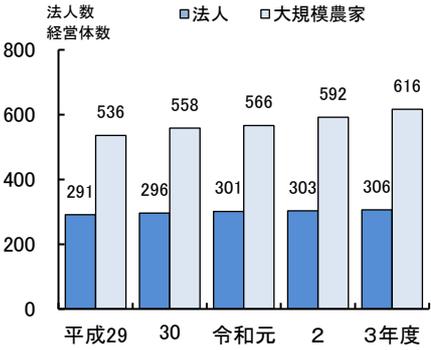
## 2 農林水産業の主な動向

### (1) マーケットインの視点で生産力を強化

#### ○ 農地の担い手への集積や大区画化を推進

- ・ 県では、水田農業の持続的発展のため、農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化を推進。
- ・ 令和 3 年度は畦畔除去による大区画化や、担い手同士の農地交換による集約化を支援。併せて、農地中間管理機構に、新たに「農地利用調整戦略室」を設置し、市町村を越えた農地の利用調整を行うなど、担い手の規模拡大を支援。
- ・ これらの結果、担い手である大規模農家と集落営農組織への集積面積は 31,966ha となり、水田面積\*に占める集積率は、前年度から 2 ポイント増加の 67%。
- ・ 法人化した集落営農組織は 3 増加の 306 法人、10ha 以上の大規模農家は 24 増加の 616 経営体に拡大。

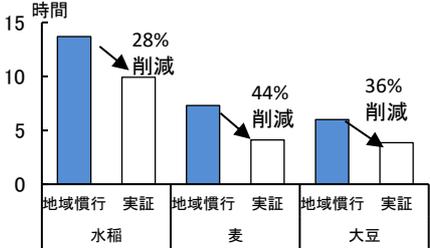
※水田面積：土地利用型作物（米、麦、大豆）が生産されている水田の面積で、県内約 48,000ha。



水田農業における経営体数  
資料：水田農業振興課調べ

#### ○ スマート農業機械の一貫体系により水田農業の労働時間が削減

- ・ 令和 2 年度から 3 年度にかけて、国の「スマート農業技術の実証・開発プロジェクト」に参画し、スマート農業技術を活用した作業体系の実証を実施。
- ・ この取組により、地域における一般的な栽培方法に比べて、労働時間は水稲で 28%、小麦で 44%、大豆で 36% 削減できることを実証。また、無人ロボットトラクタと自動操舵システムの活用で、経験の浅い生産者でも熟練の生産者並みの機械作業ができることを実証。



10a あたりの労働時間

#### ○ ICTを活用し、八女産材で住宅 21 棟を建築

- ・ マーケットインによる木材生産の実現に向け、ICTを活用した木材の生産・流通体制の構築を支援。
- ・ 令和 3 年度は、モデル地区の八女地域で、工務店が求める製品の規格や在庫量といった情報を生産者や木材加工業者がクラウド上で共有し、その情報に基づく計画的な伐採や製品加工を、実際の住宅建築へとつなげる取組を支援。
- ・ その結果、八女地域の木材を中心に使用した住宅が、県内に 21 棟建築。



八女地域材を使用した住宅

## ○ ノリ養殖に必要な情報を一括提供し、安定生産を推進

- ・ 県では、海況の変化に応じてノリ養殖管理を適切に行えるよう、有明海の水温や潮位といった海況情報を観測し、漁業者に提供するウェブサイト「福岡県海況情報提供システム『うみえる福岡』」を運用。
- ・ 令和3年度からは、情報の提供を30分間隔から10分間隔に短縮するとともに、気象台の予報や栄養塩情報を一括して提供できるよう機能を拡充。
- ・ 漁業者からは「スマートフォンで、栄養塩の情報を地図上で見られるようになり、わかりやすくなった」との声。

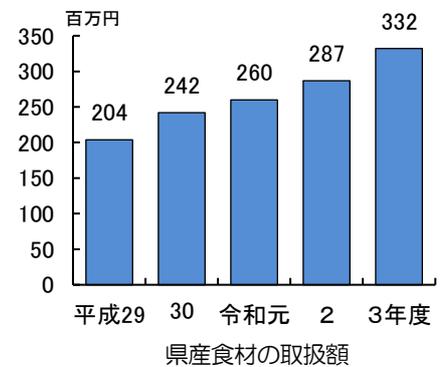


地図上に表示された栄養塩情報

## (2) 「選ばれる福岡県」に向けてブランド力を強化し、販売を促進

### ○ 県産食材の取扱額が3億円を突破

- ・ 東京と大阪に「福岡よかもん・よかとこプロモーションセンター」を設置し、首都圏・関西圏のホテルやレストランといった外食事業へ県産農林水産物をPR。
- ・ 令和3年度は、県産食材の輸送体制の確保に向けた取組や、中食・外食事業者のニーズを産地にフィードバックして商品改良を促す取組を実施し、継続取引が拡大。加えて、バイヤーの産地招へい等の取組を進めた結果、「福岡フェア」等における県産食材の取扱高は前年度から15%増となる、約3.3億円に拡大。



資料：福岡の食販売促進課調べ

### ○ 高級茶ブランド「福岡の八女茶」をPR

- ・ 国内外で「福岡の八女茶」の認知度を向上させるため、『福岡の八女茶』プレミアム商談サロンを28社の茶商やバイヤーとオンラインで開催。
- ・ 商談では、煎茶や玉露、和紅茶といった様々な八女茶と合う料理と一緒に提案するとともに、ロゴマークに込められた八女茶の伝統や産地の歴史も併せて紹介し、八女茶の魅力をPR。
- ・ また、福岡を代表する洋菓子店2店舗と連携して、八女伝統本玉露を使った「八女玉露のテリーヌ」を開発し、玉露本来の魅力をスイーツで発信。



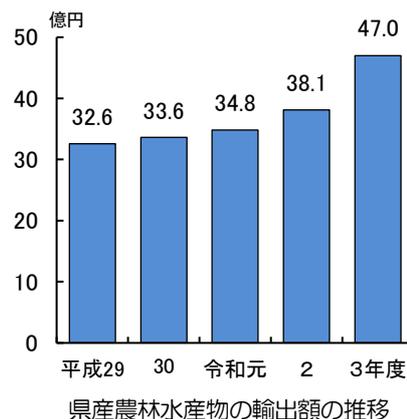
「福岡の八女茶」ティーペアリング



「八女玉露のテリーヌ」

## ○ 県産農林水産物の輸出額が47億円で過去最高

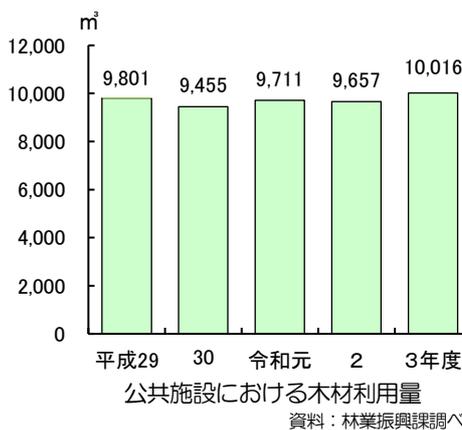
- ・コロナ禍に対応した県産農林水産物の輸出拡大の取組として、海外量販店のバイヤーと県内産地とのオンライン商談を令和3年度も継続して支援。これにより、JA筑前あさくらの「博多万能ねぎ」が11月からシンガポールとマレーシアへ年間を通じて輸出を開始。
- ・また、香港、シンガポールをはじめとする6つの国と地域で合計28回のフェアを開催するとともに、現地で人気のインフルエンサーや販売店舗のSNSにより、フェアの情報や県産農林水産物の魅力を発信し、効果的な販売を実施。
- ・これらの取組により、「あまおう」や県産酒の輸出が伸び、県産農林水産物の輸出額は前年度に比べ約23%、8.9億円増加し、47億円と過去最高を更新。



資料：輸出促進課調べ

## ○ 公共施設における木材の利用量が1万㎡超え

- ・公共施設における木造・木質化の取組として、令和3年度、県では、太宰府交番の木造化や、香椎高校体育館の木質化を実施。市町村では、奥八女焚火の森キャンプフィールドの宿泊棟といった施設の木造・木質化を実施。
- ・これらの結果、公共施設における木材利用量は、初めて1万㎡以上に拡大。
- ・また、民間施設を対象に、新型コロナウイルス感染防止対策の強化につながる県産木材を利用したリノベーションや木材製品の導入を支援し、県内71施設で内装の木質化や木製パーテーションを導入。



資料：林業振興課調べ

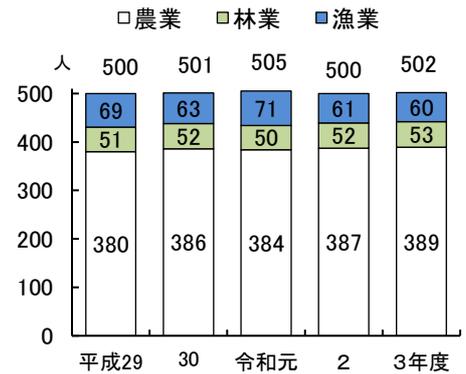


福岡おもちゃ美術館（福岡市）

### (3) 農林水産業の次代を担う「人財」を育成

#### ○ 農林漁業の新規就業者は5年連続で500人を突破

- ・ 県では、コロナ禍でも新規就業者の確保を図るため、令和3年度に初めてオンラインによる就業セミナーや相談会を開催。県内外から農林漁業への就業を希望する157人が参加。
- ・ この結果、3年度の新規就業者は502人で、5年連続で500人を突破。
- ・ また、新規就業者が持つ悩みや課題に個別に対応する新規就農アドバイザーを派遣し、新規就業者に解決策を提案したほか、新規就業者が早期に経営確立できるよう、普及指導センターで農業の基礎を学ぶ営農講座を開催。



新規就業者数  
資料：後継人材育成室、林業振興課、水産振興課調べ

#### ○ 林業従事者の経験に応じ、きめ細かな人材育成を実施

- ・ 県では、林業従事者の定着や技術向上のため、それぞれの経験に応じ、各種の人材育成研修を実施。
- ・ 令和3年度は、この研修に延べ91人が参加。このうち、就業後3年から5年程度経過した林業従事者を対象とした研修では、伐倒作業や原木を運び出す架線作業といった基礎的な技術に加え、研修生からのニーズにあわせ大雨でも壊れにくい森林作業道の整備方法や高性能林業機械の操作を追加し、内容を充実。
- ・ 参加者からは、「壊れにくい作業道の作り方を学べて勉強になった」、「実際に、高性能機械を操作し、作業の効率化に役立つことを実感した」といった声。

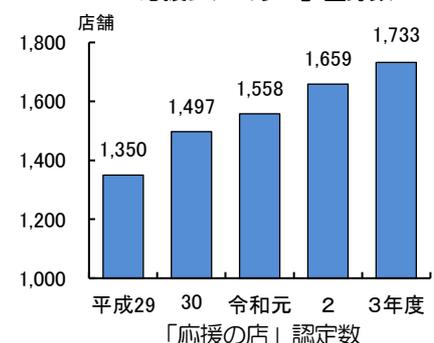
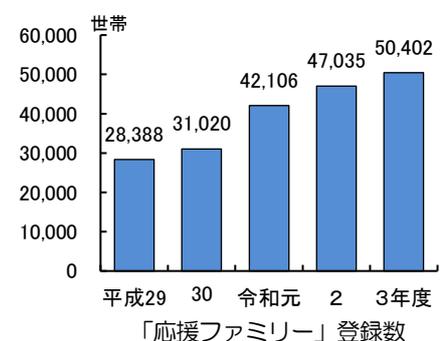


森林作業道整備方法について  
研修を受ける林業従事者

### (4) 県民とともにつくる農林水産業の推進

#### ○ 「応援ファミリー」が50,000世帯、「応援の店」が1,700店を突破

- ・ 県では、農林水産業への県民の理解促進を図るため、県産農林水産物を積極的に買って応援する「地産地消応援ファミリー」と、積極的に使って応援する「地産地消応援の店」からなる「ふくおか農林漁業応援団」づくりを推進。
- ・ 令和3年度は、県の包括連携協定企業を通じて重点的に登録を働きかけた結果「応援ファミリー」は50,000世帯、「応援の店」は1,700店を突破。
- ・ また、企業・団体を対象に推進している、県産農林水物の消費拡大の取組や農山漁村地域での共助活動を行う「応援団体」の登録は658団体まで拡大。



## ○ Webやアプリを活用して食育・地産地消を推進

- ・ 県では、県民へ県産農林水産物や地産地消に関する情報を発信するため、令和3年度から県公式LINEで、「地産地消応援の店」のメニューや直売所・観光農園の情報を配信。
- ・ また、3年度は、「地産地消応援の店」や直売所、観光農園の誘客促進のため、「ふくおか地産地消 行けば行くほど！&来れば来るほど！キャンペーン」と題し、県内の直売所や観光農園を巡るモバイルスタンプラリーや、「地産地消応援の店」の利用ポイントを集める来店ポイントキャンペーンを583店舗で実施。延べ30,327人が参加。
- ・ さらに、家庭で県産食材を使った料理を楽しんでもらうため、「ふくおかの食で健康メニュー」のレシピ動画を、YouTubeで公開。



「ふくおか地産地消行けば行くほど！  
&来れば来るほど！キャンペーン」  
ロゴマーク



「ふくおかの食で健康メニュー」  
レシピ動画

## (5) 安心して住み続けられる農山漁村づくりを推進

### ○ 鳥獣被害防止に向け獣肉利用の拡大を推進

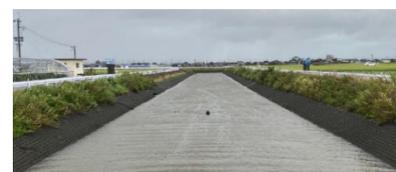
- ・ 県では、鳥獣による農作物の被害を防ぐため、集落・農地への侵入防止や捕獲、獣肉の有効活用といった対策を総合的に推進。
- ・ 特に、獣肉の有効活用については、狩猟者の負担となっている捕獲後の個体の処置と獣肉加工施設への運搬を民間事業者が担う取組を糸島市と添田町で実施し、獣肉の利用拡大を推進。
- ・ こうした獣肉を県産ジビエとして提供する飲食店「ふくおかジビエの店」は、令和4年3月末で41店舗に拡大。
- ・ 認定店では、3年10～11月と4年2月に「ジビエフェア」を開催し、約3,200人がジビエの美味しさ堪能。



ジビエ料理  
(シカもも肉のロースト)

### ○ クリークの先行排水の広域化で治水を推進

- ・ 筑後川下流域における豪雨時の湛水被害の軽減を図るため、大雨が予想される際に、あらかじめクリークの水位を下げて雨水の受け皿を確保する先行排水の取組の広域化を推進。
- ・ 先行排水は、湛水時間の短縮効果が確認されているものの、少雨の場合、水位回復に時間を要すること等が課題。
- ・ そのため、県では、令和3年度、水位の回復時間の短縮に向けた水門操作の実証を行い、その効果を確認。この水門操作を含め、効率的な水位回復のルールを関係市町と共有。



クリークを活用した先行排水の実施状況  
(上段：実施前、下段：実施後)

### 3 部門別の動き

#### (1) 農業

##### ○ 米の作況指数は98の「やや不良」、麦は4年連続で豊作

- ・ 米の作付面積は前年比 300ha 減の 34,600ha。8月が低温・日照不足で経過し、全もみ数が平年より少なくなったため、作況指数は98の「やや不良」。
- ・ 麦の作付面積は、前年比 200ha 増の 22,300ha。生産量は平年\*比 44%増の 105,500t と、4年連続で豊作。これは、排水対策の徹底や適期に播種されたことが要因。ラーメン用小麦「ラー麦」の作付面積は、前年並みの 1,820ha。生産量は平年比 58%増の 8,700t。

※生産量の平年値：平成26年産～令和2年産のうち最高及び最低を除いた5か年平均。

米・麦・大豆の作付面積

品目	単位:ha,%		
	2年産 (a)	3年産 (b)	(b)/(a)
米	34,900	34,600	99
元気つくし	6,630	6,430	97
実りつくし	370	440	119
麦	22,100	22,300	101
ラー麦	1,840	1,820	99
大豆	8,220	8,190	100

資料：農林水産省「作物統計」、水田農業振興課調べ

##### ○ 「早味かん」をはじめ、県育成品種の生産量が増加

- ・ 温州みかんの栽培面積は、前年比 30ha 減の 1,150ha。優良品種の「早味かん」と「北原早生」は改植が進み、面積は前年比 5ha 増の 176ha。生産量は、27%増の 3,166t。
- ・ かきの県育成品種「秋王」の栽培面積は、前年並みの 39ha。生産量は前年比 90%増の 110t。
- ・ キウイフルーツの県育成品種「甘うい」の栽培面積は、前年比 1ha 増の 20ha。生産量は 41%増の 308t。

果樹優良品種の栽培面積

品目	単位:ha,%		
	2年産 (a)	3年産 (b)	(b)/(a)
温州みかん	1,180	1,150	97
早味かん	79	83	105
北原早生	92	93	101
かき	1,200	1,170	98
秋王	39	39	101
キウイフルーツ	282	282	100
甘うい	19	20	104

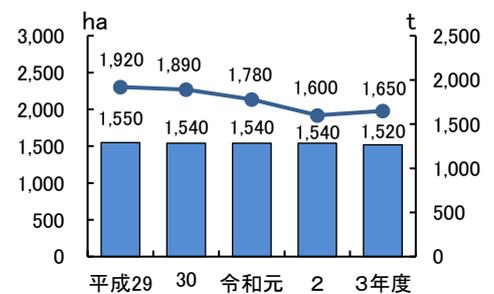
資料：農林水産省「作物統計」、園芸振興課調べ

##### ○ 一番茶（煎茶・玉露）価格は全国一

- ・ 茶の栽培面積は前年度並みの 1,520ha。荒茶生産量は、前年度比 3%増の 1,650t。伝統本玉露の栽培面積は、前年度比 0.6ha 減の 13.6ha。
- ・ 「さえみどり」や「おくみどり」といった優良品種への改植を進めた結果、優良品種の栽培面積は 2ha 増の 194ha。
- ・ 一番茶の荒茶価格は煎茶で 3,164 円/kg、玉露で 5,669 円/kg といずれも全国一。
- ・ 全国茶品評会で、八女市が「玉露の部」で 21 年連続、「煎茶 4kg の部」で初となる産地賞\*を受賞。

※産地賞：茶種ごとに成績優秀な市町村に対し褒賞するもの。同一市町村から3点以上出品があり、審査成績の上位3点の合計審査得点をもって決定。

栽培面積 荒茶生産量



茶の栽培面積と荒茶生産量

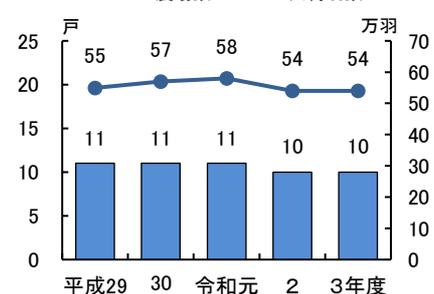
資料：面積は農林水産省「耕地及び作付面積統計」  
荒茶生産量は農林水産省「作物統計（工芸作物）」

##### ○ 「はかた地どり」の出荷羽数は5年連続で九州一

- ・ 令和3年度の「はかた地どり」の出荷羽数は、前年度並みの 54 万羽で、5年連続で地どりの出荷羽数は、九州 1 位を達成。
- ・ 分散飼育によるリスク回避の体制確保や高い飼育管理技術、徹底した衛生管理の取組などが評価され、4年3月31日に地理的表示（GI）\*に登録。

※地理的表示（GI）：特定の産地と品質等の面で結び付きのある農林水産物・食品といった産品の名称（地理的表示）を知的財産として保護する制度。

農場数 出荷羽数



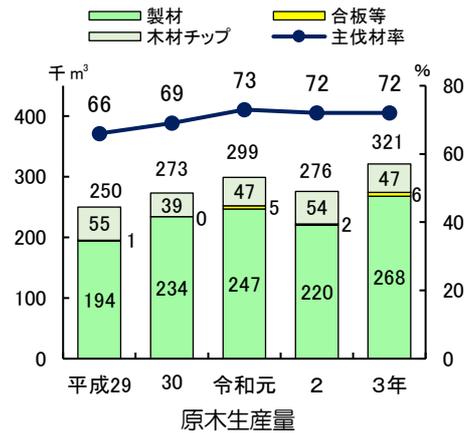
「はかた地どり」農場数と出荷羽数

資料：福岡県はかた地どり推進協議会調べ

## (2) 林業

### ○ 原木生産量は16%増の321千m<sup>3</sup>

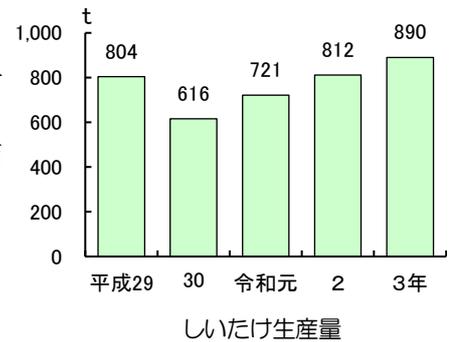
- 令和3年の原木生産量は、主伐経費への助成や高性能林業機械の導入支援による主伐の推進に加え、外国産の木材供給の減少で国産材の需要が高まったことにより、前年比16%増の321千m<sup>3</sup>。原木生産に占める主伐材の割合は前年と変わらず72%。
- 原木の用途別では、製材用が268千m<sup>3</sup>、合板等用が6千m<sup>3</sup>、木材チップ用が47千m<sup>3</sup>。



資料：林業振興課調べ

### ○ しいたけの生産量は10%増の890t

- 令和3年のしいたけの生産量は、前年比10%増の890t。
- これは、家庭での需要の増加に対応し、菌床しいたけの生産量を拡大したことが要因。
- たけのこの生産量は、冬から春先にかけての発生時期に降雨が少なかったことに加え、主産地の八女地域が裏年であったことにより、前年比41%減の4,386t。



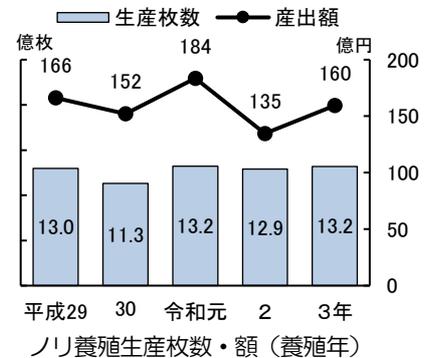
資料：農山漁村振興課調べ

## (3) 水産業

### ○ ノリ生産量は平年並みを維持

- ノリの生産枚数は平年<sup>\*</sup>比3%増の13.2億枚。県による迅速な海況情報の提供と漁業者への養殖指導を徹底した結果、平年並みの生産枚数を維持。
- 平均単価は、平年比0.78円安の12.09円/枚で、生産額は平年比97%の160億円。

※生産枚数の平年値：平成28年～令和2年の5か年平均。

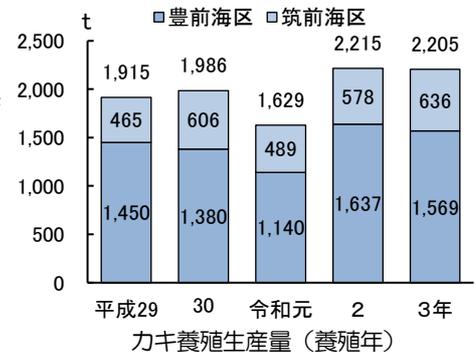


資料：水産振興課調べ

### ○ カキ養殖生産量は平年比13%増の2,205t

- カキの養殖生産量は、平年<sup>\*</sup>比13%増の2,205t。
- これは、海況が安定していたことに加え、県の指導に基づく食害防止対策や養殖管理が徹底されたことにより、順調に成長したことが要因。

※生産量の平年値：平成28年～令和2年の5か年平均。



資料：水産振興課調べ